

焼津市の通級指導教室(ことばの教室・まなびの教室)の担当者として、多くの子ども達を支援してこられた荒井久美子先生に、特別支援教育で大切にしたいことや、一人一人の特性に応じた支援のヒントについて、わかりやすい言葉で書いていただきました。



支援の振り返り

我が子は、書写の時間に、先生が分けた席書コンクール用の清書用紙を後ろの席の子に回さないで一人で全部使ってしまう、先生に怒られたそうです。



まなびの教室に通わせたいお子さんをお持ちの保護者さんとの面談でのことです。保護者さんは笑いながら話していましたが、私は納得がいきませんでした。どうして、全員に清書用紙が行き渡っていないことに気が付かなかったのだろうか。どうして、清書用紙が回ってこない子ども達は何もアクションをおこさなかったのだろうか。

このエピソードは、お子さんの特性をよく表していると思います。だから、なおのこと、私は納得がいきません。

本児についてもうすこしお伝えします。小学校3年生です。3年生といえば、書写の授業が始まってから半年しか経っていません。本児は、ワーキングメモリ(※)が弱いから、教師の指示を聞いたとおりに行動できなくてもいいとは思いません。

私が納得いかないのは、自分の力だけでは上手にできないこと(この場合は、他人に迷惑をかけてしまうこと)を抱えている本児への配慮が十分ではなかったということです。

☆全員に清書用紙を○枚ずつ分けるよ。一人○枚とったら後ろへ回してね。

→大事な言葉を繰り返して指示を出していたらどうだったでしょうか。

☆(全員に清書用紙が行き渡ったところに)みんな、○枚ずつ机の上にありますか。

→教師が出した指示が正しく実行されているか確認したらどうだったでしょうか。

(清書用紙が回ってこなかった子ども達のノーリアクションについては割愛します。)



本児を含め、特性をもっている子ども達は、他者からほめられることより、注意されることや怒られることの方が多い生活を送っていますし、これまでもそのように生活を送ってきました。自分の力だけでは上手にできないことを抱えているからです。

そんな子ども達のために、私たち支援者(担任であり、保護者であり、通級担当者であり...)にできることは何でしょうか。そういう子ども達が叱責される場面が減るように学習や活動がスムーズに進められるように環境を整えることです。

では、環境を整えるとはどういうことでしょうか。物理的な環境調整があります。座席の位置、室内の整理整頓、室内の温湿度調整、外からの刺激(聞こえてくるもの、見えるもの 等)の調整等です。

私は、「人的環境調整」、人も環境の中の大きな要素だと考えます。話し方(指示の出し方、説明の仕方等)、板書の仕方(文字の大きさ、色分けや印の使い分け 等)、物の提示の仕方等の調整です。子どもが失敗した時やうまくできなかった時は、子どもを責めるのではなく、環境要素の1つとして支援者の支援やかかわりがどうであったのかを振り返るきっかけにしていきたいと思います。

※ワーキングメモリ…話を聞いたり、計算したり、作業をしたりする際に、必要な情報を一時的に保存したり、処理したりする脳の働きのこと。